

Gender equality & Poverty reduction

February, 2019

Vol. 5

ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター



Cover Photo: JICA / Atsushi Shibuya

CONTENTS

-
1. 巻頭メッセージ：原南アジア部長
 2. 貧困削減の潮流：1.9 ドルはもう古い～世界銀行が取組む新たな貧困基準～
 3. 専門員が見た！：マラウイ農業案件における「社会・ジェンダー分析」（山口専門員）
 4. 案件紹介：課題別研修「中米統合機構（SICA）加盟国向け ビジネスを通じた女性のエンパワメント」
 5. コラム：あなたの「集中力」を計測する？

巻頭メッセージ

～『金融包摂』勉強会』から考えたこと～

先日、南アジア部のランチ勉強会にジェンダー平等・貧困削減推進室をお招きして、南アジアの「金融包摂」についてお話し頂きました。国際比較や国ごとの状況について豊富なデータの整理とともに、バングラデシュ・パキスタン・インドの事例が示され、様々な論点に思いを巡らすための貴重なインプットを頂きました。

セミナーの後で思ったことの一つが、「対象となる人々（例：金融包摂の対象となる貧困層／植林事業の周辺住民）の『リアリティ』に思いを巡らせることが必要」、という、極々当たり前だけれどもとても難しいことです。JICA の関与は往々にして相手国政府を通じたものであり、物事を見る（見せられる）視点は行政の目線になりがち。それ自体が悪いわけではありませんが、どうしてもそこには、行政側の都合・恣意・現状肯定等、一定のバイアスがかかります。また、広い意味で JICA も「行政」の一部なので「行政の目線」に共感しやすい面があることも意識しておくべきでしょう。貧困層にとっての『リアリティ』は、「行政＝お上・仕事をくれる」、「行政＝腐敗・搾取・怠慢・やり過ぎすべき相手」、「JICA＝時々来る行政のゲスト」なのかもしれません。

この地域に関わり始めて 30 年近く、多くの国々が見違えるように発展してきていますが、一番変わっていないのは行政(と政治)、そしてその負の影響が一番及んでいるのが貧困層なのだと思います。そのような中、「リアリティ」を理解すべく、我々の「視線」を補正するためには「想像力」を最大限活かすことが不可欠。そのために、ちょっと古いですが、[世界銀行（2002）『貧しい人々の声：私たちの声が聞こえますか？』](#)や、「積ん読」のままの [P Sainath（1996）『Everybody Loves a Good Drought: Stories from India's Poorest Districts』](#)等を改めて読んでみようと思いました。

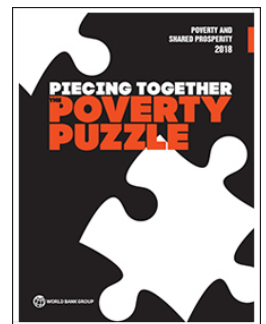
（同勉強会資料は[こちら](#)）

（南アジア部部長 原 昌平）

貧困削減の潮流：

1.9 ドルはもう古い～世界銀行が取組む新たな貧困基準～

SDGs は Goal11 において「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」と明言しており、従来の定義所得(1.9 ドル/日)に限らない、多次元的な貧困の理解・捉え方の重要性が強調されています。世界銀行の最新のレポート「[貧困と繁栄の共有：貧困のパズルを解く](#)」では、所得に加え、教育+基礎インフラ(水、電気等)の3 側面に、保健・栄養+安全の指標を加えた 5 つの側面を考慮した貧困率の推計を試みており、世銀は各国の統計局等と連携して関連指標のモニタリングを強化する予定としています。上述の 3 側面で捉えた 2013 年の貧困率は 18.3%(所得のみの場合 11.8%)であり、具体的には「南アジア地域は所得ベースでは貧困率が減少しているが、基礎インフラ及び教育水準に依然として課題が見られる」等の実態が明らかにされており、今後、国別、地域別に多次元の貧困率が推計・比較されることで、より多様な貧困の実態が明らかになるでしょう。



（社会基盤・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 大石 航平）

専門員が見た！： 農業案件における社会・ジェンダー分析@マラウイ

社会・ジェンダー分析は、コミュニティや世帯において男女がどのように生活し、どのような関係性にあるのか、それによりどのようなジェンダー課題が存在するのかを明らかにするためにを行います。

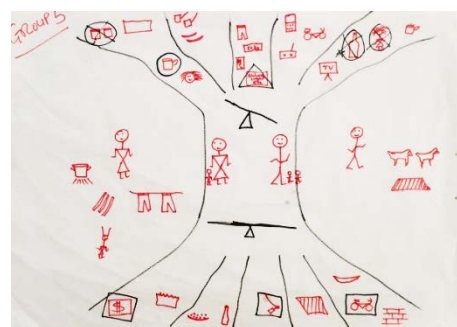
JICA の農業案件などで良く使われているのは、ハーバード方式分析フレームワーク*1 と呼ばれるものです。図 1, 図 2 に示したような表を使って、男女の役割分担や、資源や便益に対するアクセス（使用）とコントロール（管理・所有）の違いを把握します。農民男女が実際にこれらの分析を行うことで、男女の違いに関する「気づき」を促すことにも有効です。

Activity	Men (Husbands)	Women (Wives)
1. Productive Activities (Income Generating Activity)		
Rice cultivation	✓	✓
Horticulture		✓✓
Poultry raising	✓	✓✓
Trade		
2. Reproductive Activities (Unpaid House Work)		
Cooking		
Washing		
Cleaning		
Childcare		
Fetching water		
Collecting firewood		
3. Community Activities		
Rehabilitation of rural roads		
Roof thatching		
Ceremonies		
Community meetings		

図 1: 活動分析

Resources/Services	Access		Control	
	Men	Women	Men	Women
Land	✓✓	✓	✓	
Combine harvester	✓✓	✓	✓	
Motorbike	✓		✓	
Bicycle		✓		✓
Cattles	✓		✓	
Chickens	✓	✓	✓✓	✓
Cash income from rice	✓	✓	✓	
Credit	✓		✓	
Irrigators' organization	✓		✓	
Agricultural training	✓✓	✓	✓	
Gender training		✓	✓✓	✓

図 2: アクセスとコントロール分析



マラウイの JICA 農業案件では、ジェンダーバランスツリー (GBT) *2 という社会・ジェンダー分析ツールを活用し、農民男女のジェンダーに関する意識啓発を進めています。GBT は、世帯の構成員（幹）、世帯における男女の役割分担（根）、誰が何にお金を使っているか（枝）、誰が何を所有し意思決定を行っているか（幹の外側）を世帯構成員で話し合っ木を描き、バランスのとれた木にするためには家族でどのような取り組みを進めていくべきかを話し合うツールになっています（右写真参照）。

マラウイでは、案件の C/P 機関である農業・灌漑・水開発省が GBT のマニュアルを作成し、農業普及員などに対してパイロット的な研修を実施していたため、この分析ツールを活用しています。皆さんが関わっている国でも、様々な分析ツールを活用しているかもしれません。ぜひ一度確認してみてくださいはいかがでしょうか？

（国際協力専門員 山口 綾）

*1 本フレームワークの詳細は[こちらのURL](#) (特に p. 34 以降) をご参照ください。

*2 GBT 作成のステップは、[こちらのURL](#) をご参照ください。

案件紹介：課題別研修

「中米統合機構（SICA）加盟国向け ビジネスを通じた女性のエンパワメント」

JICA は、2015 年に、中米統合機構(SICA)と中米地域における女性の経済的エンパワメントに向けた協力を推進していくことに合意しました。女性の経済的エンパワメントは、JICA のジェンダー平等に向けた協力指針における優先開発課題の一つであり、SICA のジェンダー平等・公正のための地域政策においても、重点取り組み課題の一つとして掲げられています。本研修は、その合意が具体化した協力の一つです。

2 度目の研修となった今年度は、2019 年 1 月 9 日～2 月 16 日の約 5 週間の間、SICA 加盟国のうち 7 か国より、女性省や女性の経済・労働参加に関する事業を管轄する省庁より参加した 13 名の研修員が、広島と東京で、女性の経済的エンパワメントに関する様々な政策・施策・制度・具体的取り組み等について学びました。



多くの研修員に特に好評だったのは、

インキュベーション施設運営等を通じた民間による起業支援の取り組みや、第 3 セクターによるビジネスモデルとしての「道の駅」の訪問、小規模農業に携わる女性も含めた農家による農作物のネット販売の取り組みなどでした。

帰国後は、各自が所属する省庁の立場から、女性の起業や経済参加を支援するための取り組みに着手する予定であり、各国で経済参加の機会が奪われている女性たちの経済的エンパワメントが促進されることが期待されています。

(社会基盤・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 宇佐美 茉莉)

コラム：「集中力」を計測する？

～ウェアラブルデバイスであなたの集中力をチェック～

近年、生産性向上や働き方改革への関心が日本中で高まっています。[注意カマネージメント](#)、[集中力の確保](#)、[シングルタスク](#)等、様々なメディアで生産性向上のエッセンスが紹介されており、その中でも、「**一つのことに集中する**」ことの重要性が強調されています。

最近、この集中力を測定できるウェアラブルデバイスやサービスが次々と登場しており、これまでは感覚的にしか分からなかった自分の集中力を、定量的に把握することが可能になっています。

例えば、日本の眼鏡メーカー JINS が手掛ける「[JINS meme](#)」は眼鏡タイプのウェアラブルで、眼球の動き、頭の角度、瞬きの頻度をデータとして集計・分析し、ユーザーが、いつ、どの程度集中しているかを



専用アプリで確認することができます。海外では、米国 Spirehealth 社が 2017 年に発表した「[Health Tag](#)」は、下着に装着するだけで、ユーザーの呼吸パターンを集計・分析し、集中度に加え、呼吸数、心拍数、ストレス値、睡眠の質等、生活の質に係るデータとして整理、生活習慣改善の提言まで行ってくれます。

これらのサービスを活用することで、例えば、「自分は午後 2-4 時が最も集中力が高いので、この時間には会議や作業を入れず、考える仕事をしよう」といったように、感覚ではなく、データに基づき自分の働き方を修正・改善することができます。

野村総合研究所は [Oxford 大学との研究](#)で、今後 10-20 年間で、日本の労働人口の 49%が AI やロボットで代替可能になる、との見通しを示しています。代替される危険の高い業種には「行政職員」も含まれており、JICA 職員の業務も例外ではないはずです。上述のようなデバイスや、生産性向上に資する様々な製品・サービスを積極的に活用し、付加価値の高い仕事に集中して取り組むことの重要性を日々感じています。

(社会基盤・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 大石 航平)

終わりに

第 5 号はいかがでしたでしょうか？「こういう情報を載せてほしい」「この記事の続きが知りたい」などありましたら、ぜひコメントや感想をお寄せください。

(編集責任：京 由香)

(デザイン：泉 貴広)